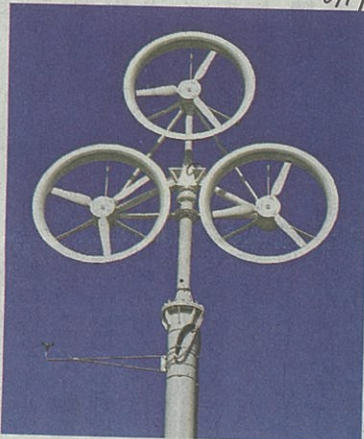


九州大学の大屋裕二教授らは弱い風でも効率よく発電できる新型風車の開発にメドをつけた。騒音が少ないため公園や住宅、学校、工場などに設置しやすい。照明などの電力を供給できる。今秋までに開発を終え、1年ほどかけて実証実験を進める。専門機関の認証が得られれば、2016年度中に同大発のベンチャーを通して発売を目指す。

弱風でも発電 小型風車

6/19 日経(女)U



リングで風を強く引き込み発電量を2.5倍に (試作機)

九大、開発にメド

引き込むことで発電量と呼んでいる。小型で騒音タイプは2・5倍に音が少ない、設置しやすい。リングが風を集めるレンズのような働きをするため「レンズ風車」を研究チームは英ストラスクライド大学と協力。

低騒音、住宅・学校向けなど

秋までに直径約3メートルのリング風車を3機組み合わせ、公園や住宅に電力を供給するために必要な出力10キロワットを発電できるシステムを完成させる。九大構内などで実証実験をして性能や安全性などを確かめる。16年夏をメドに販売に必要な認証を一般財団法人・日本海事協会に申請する予定だ。販売は九大発ベンチャーのリアムウィンド(福岡市)が担う。システムは800万円以下で、3年後に年間500台の販売を目指す。